



健康だより

平成27年度 夏号

稲田保育園



梅雨が明け、真っ青な夏空が広がっています。子ども達も暑さに負けないくらい元気に水遊びを楽しんでいます。引き続き安全に配慮し、夏ならではの遊びを色々経験できるようにしていきたいと思ひます。

この夏、旅行など遠出の計画を立てているご家庭も多いかと思いますが、外出先では下記の点に配慮して、ご家族と一緒に楽しい夏の思い出をたくさん作ってきてください。

気をつけよう・・・ 熱中症！



強い日ざしにさらされて起こるのが日射病、蒸し暑い所に長時間いて起こるのが熱射病。総称して熱中症といいます。乳幼児は体温調節の機能が未熟で熱中症になりやすく、代謝も活発なので、多くの水分を必要とします。特にベビーカーで座っている子どもは、地面からの照り返しでより熱さを感じています。使用する時は配慮してあげてください。



熱中症にならないために・・・



★つばの広い帽子をかぶる

頭だけではなく、後頭部や首も、日光から守りましょう。

★こまめな水分補給

少量の水分を、30分を目安に、こまめに飲ませましょう。

★炎天下で遊ばない

日ざしが強いのは、午前10時頃～午後2時頃。この時間帯の外遊びは30分ほどで切り上げましょう。

★子どもを一人にしない

子どもを車や部屋に一人で残さないで下さい。クーラーをつけていても危険です。

保育園では、状況に合わせて、活動の前・中・後の水分補給を行っています。

ボタン電池の誤飲に注意！



休み中お出かけの機会が増え、いつもと違う環境の中で誤飲に注意しましょう！特にボタン電池は、誤飲時に食道にとどまり、放電の影響によって短時間（わずか1時間）でも胃に潰瘍ができて穴が開いてしまうなどの重篤な症状を生じることがあり、場合によっては死に至るなど大変危険です。間違って飲んでしまっても、ウンチで出てくる大丈夫！と様子を見てはいけません。すぐに受診し、適切な処置を受けましょう。但し、一番大切なのはもちろん事故が起きない環境づくりです。また、説明して理解できる年齢になったら、子どもに危険であることを伝えていきましょう。

※詳しくは消費者庁のホームページに掲載されています。

気をつけよう・・・ 夏に罹りやすい「とびひ」



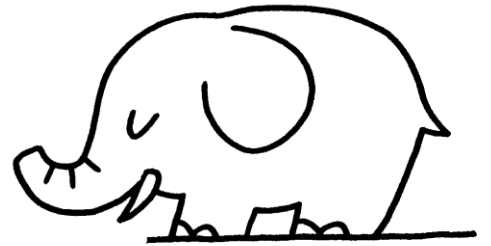
- <原因> ・虫刺されや湿疹をかきむしったあとに感染して起こる。
- <症状> ・皮膚に水ぶくれができ、破けて赤くむけた状態になり、強いかゆみを伴う。
・放っておくとあつという間に広範囲に広がる
- <治療> ・ごく初期の段階では塗り薬のみの治療だが、大抵の場合は抗生物質の内服と塗り薬の両方での治療。

★「とびひ」は登園停止の病気ではありませんが、他のお子さんへの感染防止のために以下の事を御協力して頂いています。

- ・「とびひ」の部分は露出せず、洋服や(状態により)絆創膏やガーゼ等で被って下さい。
- ・治癒するまで水遊びは控えて頂きますのでプールカードの記入は「×」でお願いします。

※ 医師の指示、治療の内容によっては、対応が異なる事もあります。個々に相談して下さい。

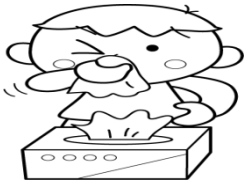
8月7日は・・・「鼻の日」です！ 鼻をたいせつに・・・



鼻は呼吸の出入り口であり、ウィルスや細菌が体に侵入するのを食い止める役割を果たしています。また、耳や喉とつながっている為、鼻の症状を放置しておく中耳炎や喉の炎症など他の器官に症状が広がる事もあります。鼻の健康を保つ為に十分配慮しましょう。

①鼻水が出る

鼻水はまめにかみましよう。
(まだ、鼻がかめないお子さんはきれいにふき取りましよう)



②鼻水が長引く

耳鼻科、または小児科を受診し、適切な治療を受けましよう



③鼻づまり

鼻の粘膜がはれるために起こります。呼吸がしづらく苦しそうな場合は、病院で吸引してもらおうと少し楽になります。



6月の感染症

★ 溶連菌感染症・・・7名

★ ヘルパンギーナ・・・1名

